



# 営農NEWS



## 水稻の斑点米カメムシ類の防除を徹底しましょう

県内における水稻の品質低下（等級落ち）の主な原因として、乳白米や黒点米など障害粒の発生とカメムシ類による斑点米の混入があります。なお、これらはいずれも高温の年に、発生しやすい傾向です。

本県の斑点米カメムシの主要種は大型のクモヘリカメムシやイネカメムシで、近年はイネカメムシの増加傾向が目立っています。その他に、中型のホソハリカメムシや小型のアカスジカスミカメなどが関与するとされています。

病害虫発生予報7月号によると、クモヘリカメムシの産卵開始時期は平年並～やや遅いと予測されています。

また、病害虫防除所では 病害虫速報 No.3（令和3年7月9日）を発表し、

「イネカメムシが水田で平年より早く確認されました！」

～早生品種では成虫の飛来が集中する恐れがあるため、発生に特に注意しましょう！～ と呼びかけています。

水稻の出穂予測時期は、農業研究所の「農研速報」によると、「あきたこまち」では水田利用研究室（龍ヶ崎市：7月6日調査）の4月27日移植で7月13日と平年より2日遅い、作物研究室（水戸市：6月29日調査）の4月30日移植で7月14日と平年より2日早いとなっています。また、「コシヒカリ」では前者が4月27日移植で7月24日と平年より1日遅い、後者は4月30日移植で7月24日と平年より2日早いとなっています。

斑点米カメムシ類の防除適期は、出穂後の時期が重要ですので、圃場の出穂時期をよく確認して、下記の防除適期に斑点米カメムシ類の防除を必ず実施してください。なお、水田内でのカメムシ類の生息を確認する場合は、日中の高温時は避けて、夕方や早朝など涼しい時間帯に水稻の穂などを注意深く観察してください。

### <薬剤の防除対策>

1. 本田に侵入したカメムシ類を対象とし、穂の不稔による被害軽減の防除適期は、出穂期～穂揃期（圃場で出穂すべき穂の8～9割が出た時期で、穂が出始めてから3～5日後）です。
2. 斑点米の被害軽減を目的とした防除適期は、乳熟期（穂揃期から7～10日後頃）です。  
発生量の多い地域では、穂揃期と乳熟期の2回の薬剤防除が必要になります。なお、その後はカメムシ類の発生を観察しながら、必要に応じて追加防除を行いましょう。
3. 出穂が周辺よりも早い水田、ヒエ等の雑草が多発している水田では、飛来虫が集中しやすい傾向があります。また、出穂の遅い水田では、周辺の水田で増殖した新成虫が侵入してくることがあります。これらの水田では特に十分な注意が必要です。
4. 防除を行う際は、収穫前日数などの農薬使用基準に十分に注意してください。また、周辺に収穫期が近い圃場のある場合は、農薬の飛散（ドリフト）に十分注意してください。クモヘリカメムシやイネカメムシなど大型のカメムシ類には、散布剤で防除してください。なお、ミツバチへの被害を軽減するため、ミツバチの活動が盛んな時間帯（午前8時～12時まで）を避け、可能な限り、早朝または夕刻に実施してください。

表1 水稻 カメムシ類の主な防除薬剤 (令和3年7月12日現在)

薬 剤 名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
MR. ジョーカーEW	2,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	3A
MR. ジョーカー粉剤DL	3～4 kg/10a	収穫7日前まで / 2回以内	
キラップフロアブル	1,000～2,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	2B
エクシードフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	4C
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	4A
スタークル粉剤DL	3 kg/10a	収穫7日前まで / 3回以内	

注) 1. 各薬剤の液剤または粉剤の、いずれかを使用してください。

2. 専用の少量散布用ノズルを装着した乗用型の地上液剤散布機器を用いる場合や、無人航空機を使用する場合には、それぞれの農薬使用基準を遵守して使用してください。

3. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



農機営農支援部 営農支援課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040